

【子どもが抱える課題と家庭の資源の関係性】

◇ 子どもが抱える課題に大きな影響を及ぼすのは、『**家庭の資源**』の不足』が考えられる。

※ 『**家庭の資源**』の不足』とは、『**親の低学歴**』、『**不十分な子どもとの関わり**』、『**低所得**』など

子どもが抱える課題		統計調査からの関係性	影響する家庭の資源
1	学力の不足	1-① 親の学歴が高いほど、子の学力は高い。(母の学歴がより強く相関) [表1]	親の学歴
		1-② 親の学歴が高いほど、子の学習時間は長い。(学年が上昇するにつれて拡大傾向) [表2]	
		1-③ 学習時間と学力には、正の相関。 [表3]	
		1-④ 親の生活習慣(規則正しい生活、どの程度本を読むか等)は子の学力に影響。 [表4]	子どもとの関わり
		1-⑤ 補助学習費の多寡は、所得と正の相関。 [表5]	所得
2	自己肯定感や将来への希望の低下	2-① 親の学歴が高いほど、子の自己肯定感が高い。 [表6]	親の学歴
		2-② 親子関係が良いほど、子の自己肯定感が高い。 [表7]	子どもとの関わり
		2-③ 所得が低いほど、子の「自分は価値ある人間」、「将来が楽しみ」と思わない割合が高い。 [表8]	所得
		2-④ 所得が低い親は、自分自身の将来の希望が持てない。 [表9]	
3	安心・安全の不十分	3-① 所得が低いほど、子の「家族に大事されている」、「不安に感じない」と思わない割合が高い。 [表8]	所得
		3-② 1歳から5歳では、貧困層で、ぜんそくの通院率が高い。 [表10]	

※ 『**経済的困難な環境**』とは、

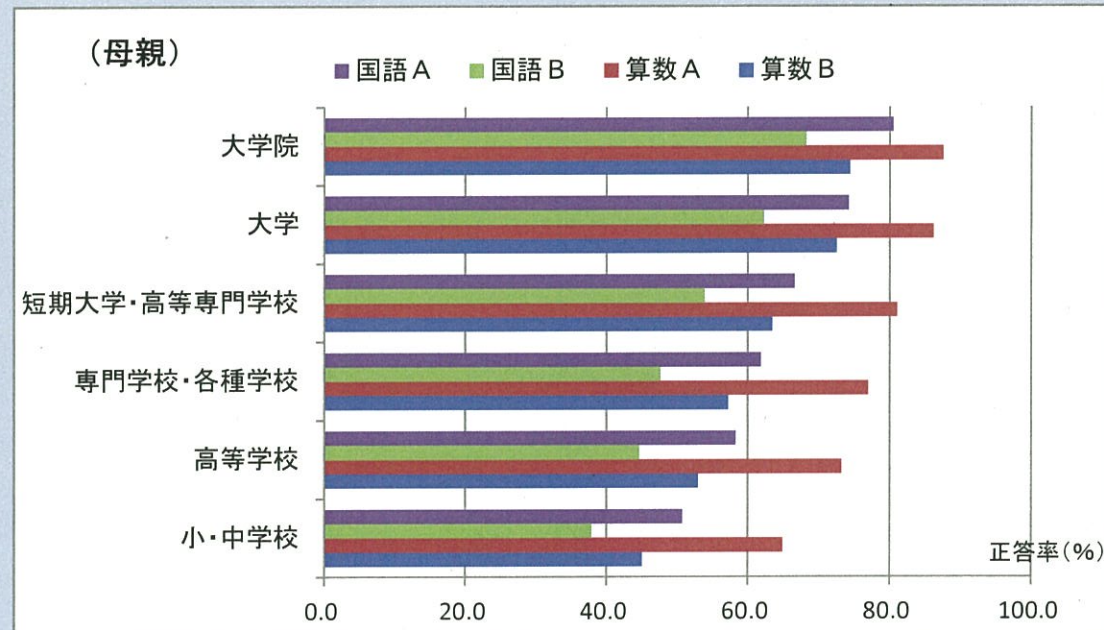
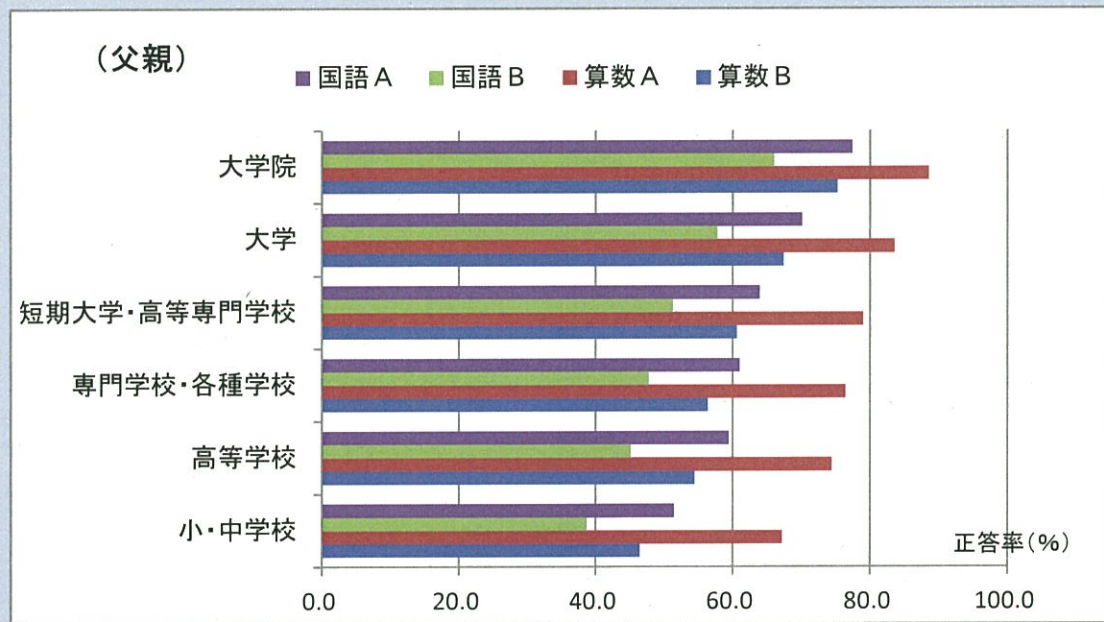
- ・ 「家庭の資源」の構成要素は相互に相関。(例:「親の低学歴 → 低所得」等)
- ・ これらが複合的に影響し、全体が低くなっている状態。

子どもが抱えるの課題と家庭の資源の関係性

1. 学力の不足

表 1 親の学歴

親の最終学歴と子どもの学力の関係(小学6年生)

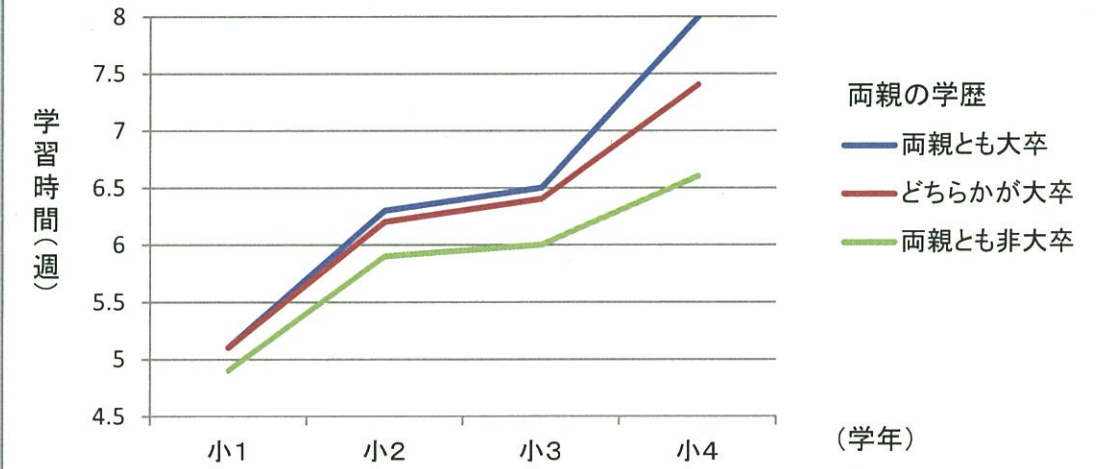


※平成25年 全国学力、学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究(国立大学法人 お茶の水女子大学)

1-① 親の学歴が高いほど、子の学力は高い。(母の学歴がより強く相関)

表 2 親の学歴

親の学歴による子どもの学習時間格差

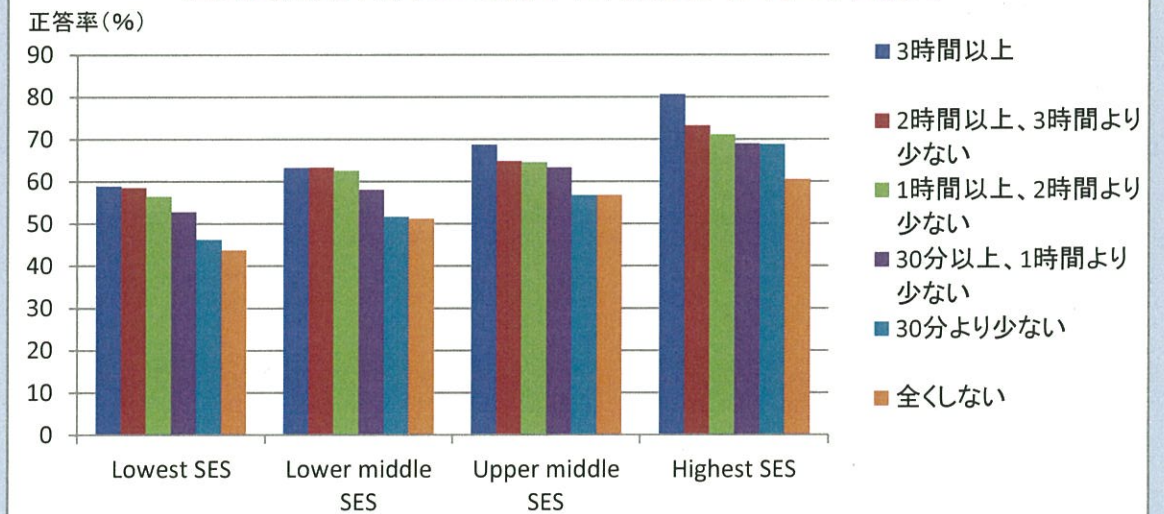


※「学力」の経済学：慶応義塾大学中室牧子准教授

1-② 親の学歴が高いほど、子の学習時間は長い。(学年が上昇するにつれて拡大傾向)

表 3 親の学歴

社会経済的背景(SEES)別学習時間と学力(小6、国語A)



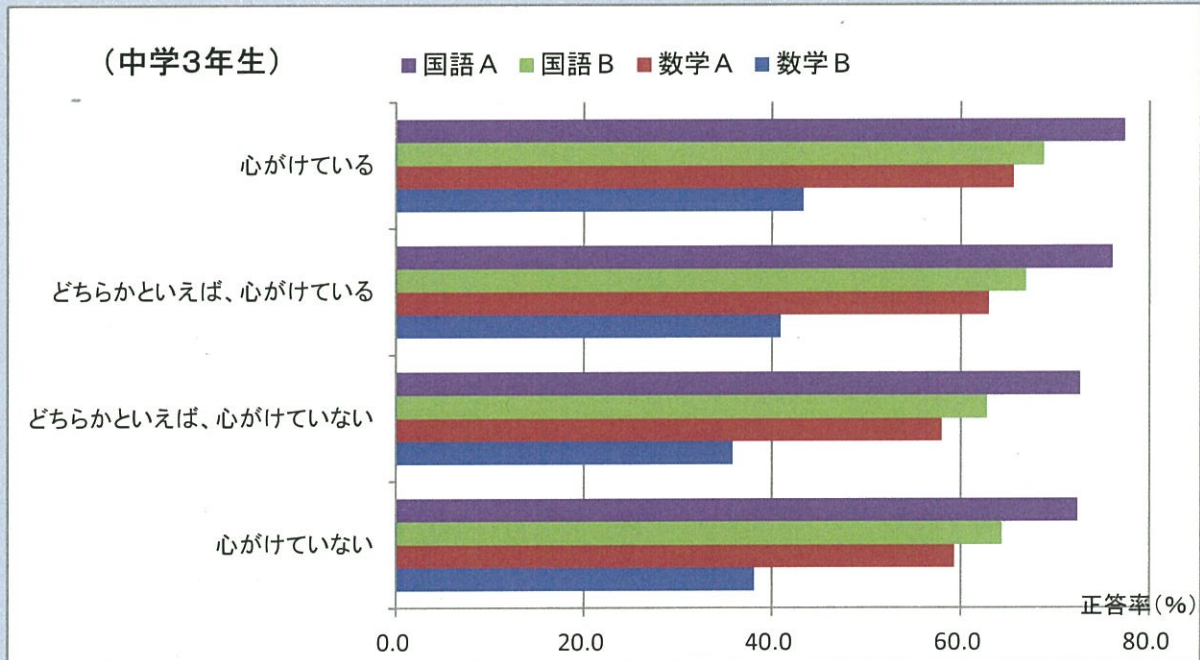
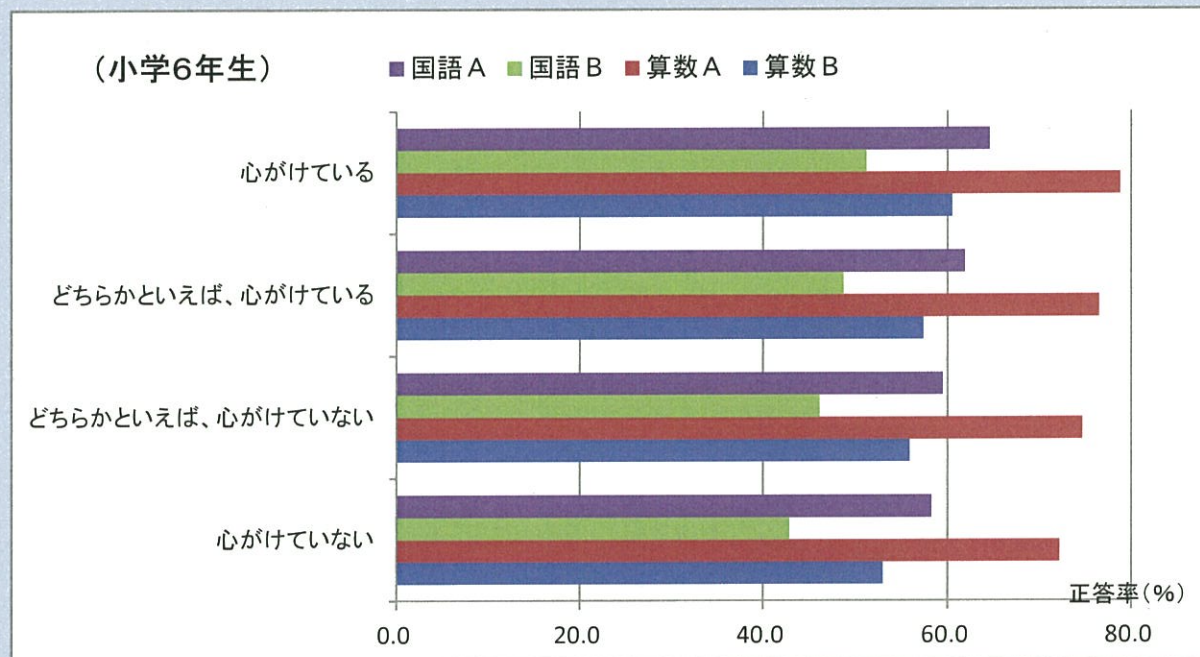
※平成25年 全国学力、学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究(国立大学法人 お茶の水女子大学)

1-③ 学習時間と学力には、正の相関。

(SESとは、家庭所得、父親学歴、母親学歴の三つの変数を合成した指標 Lowerst,Upper middle,Lower middle,Lowestに4分割して分析)

表 4 子どもとの関わり

「保護者が規則正しい生活を心がけているか」と子どもの学力の関係

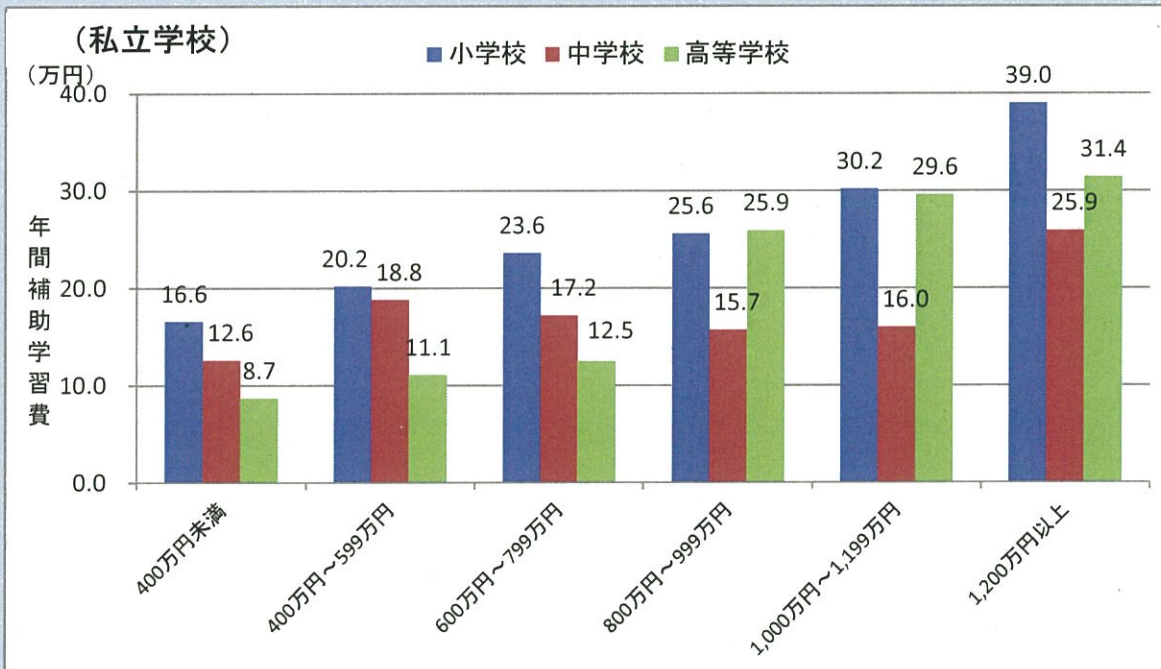
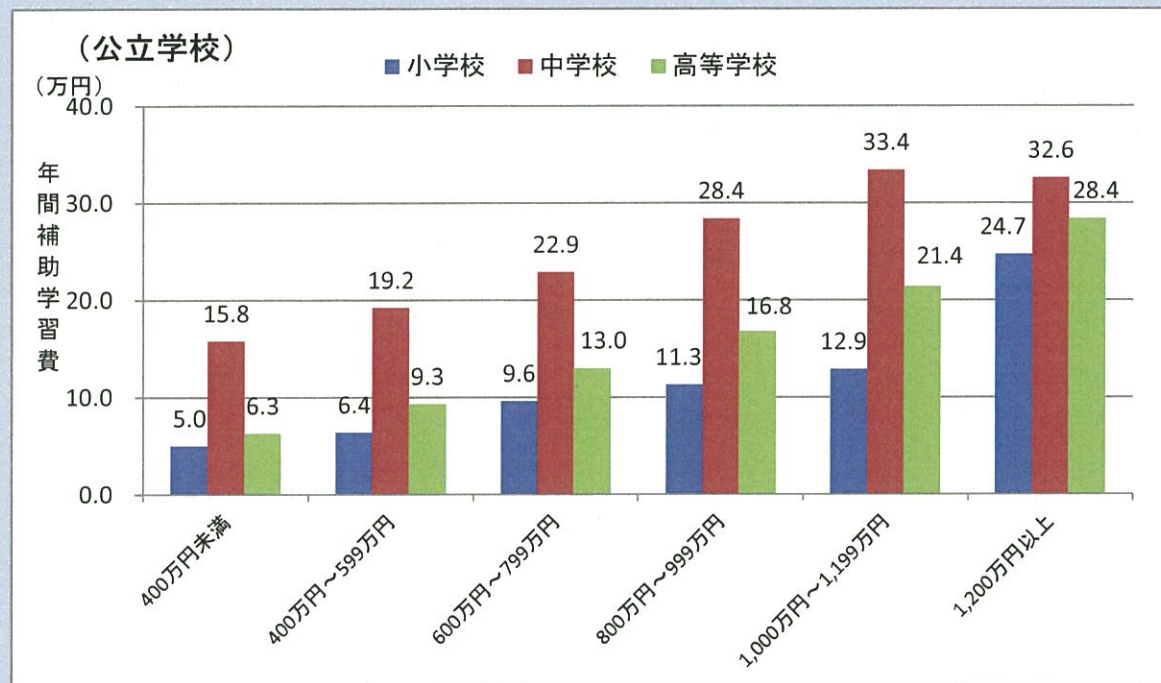


※平成25年 全国学力、学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究（国立大学法人 お茶の水女子大学）

1-④ 親の生活習慣（規則正しい生活、どの程度本を読むか等）は子の学力に影響。

表 5 所得

世帯の年間収入段階別の補助学習費



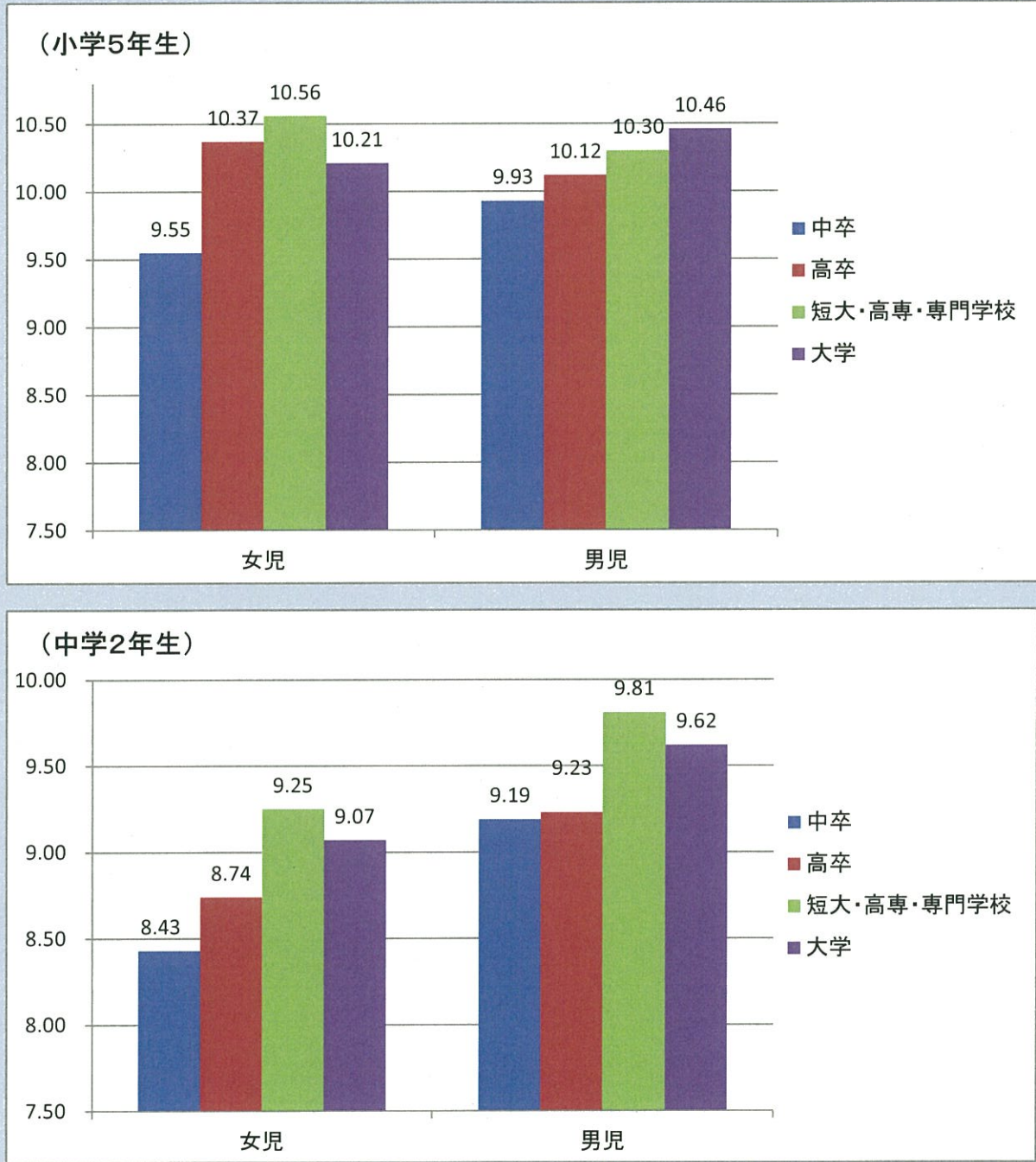
※平成24年度 「子供の学習費調査」 文部科学省

1-⑤ 補助学習費の多寡は、所得と正の相関。

2. 自己肯定感や将来の希望の低下

表 6 親の学歴

母親の学歴別 子どもの自己肯定感

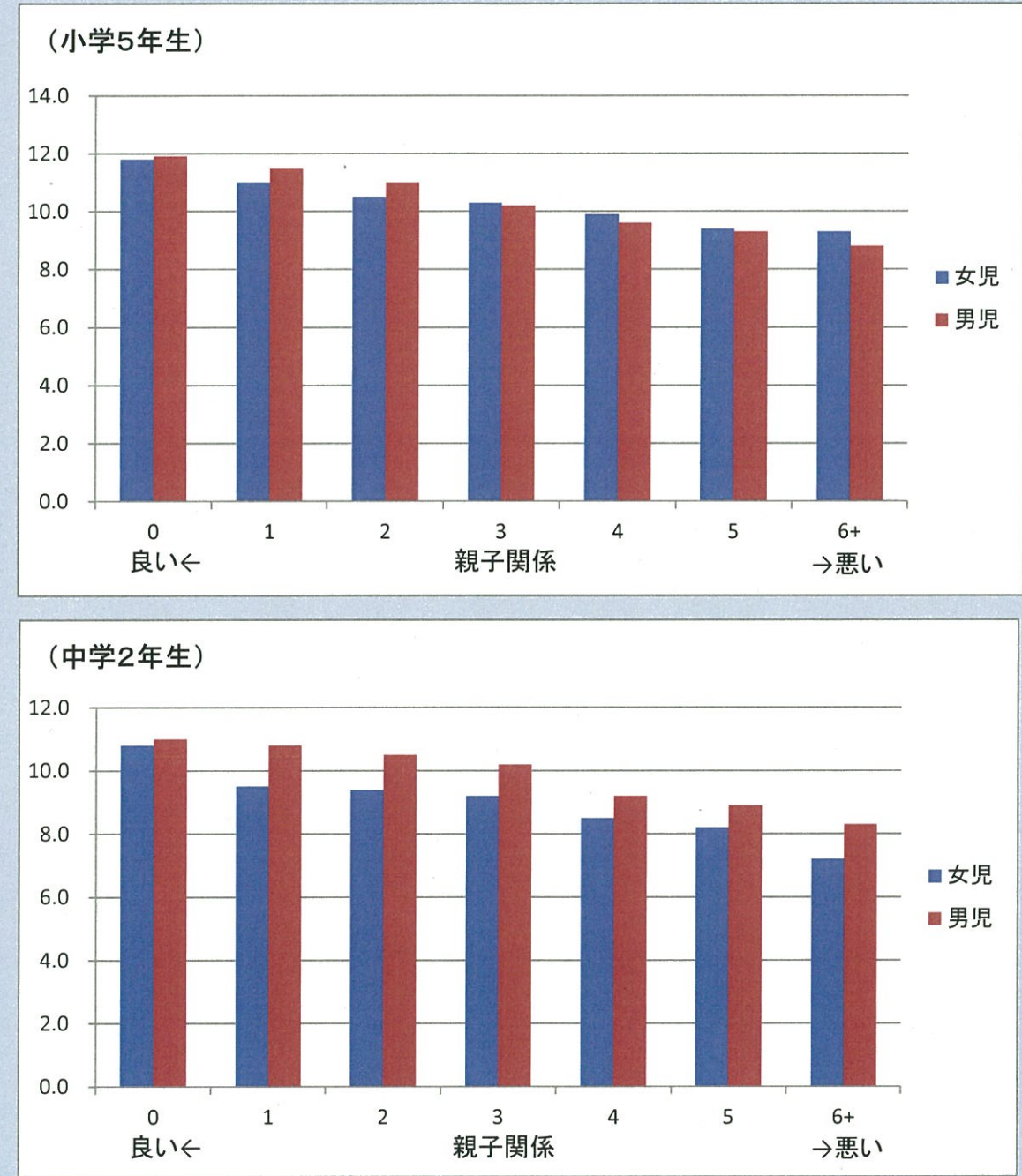


※平成24年 大阪子ども調査

2-① 親の学歴が高いほど、子の自己肯定感が高い。

表 7 子どもとの関わり

親子関係指標と自己肯定感



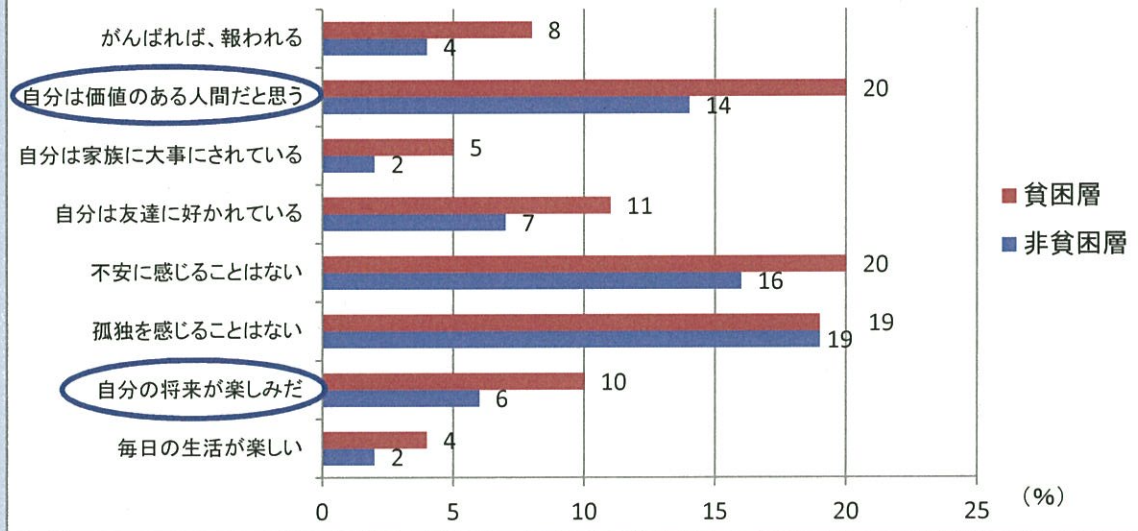
※平成24年 大阪子ども調査

2-② 親子関係が良いほど、子の自己肯定感が高い。

※各グラフの縦軸は、「がんばれば、むくわれる。」などの5つ自己肯定感を測る質問に対する回答を指標化した数字 : 0(=最低)~15(=最高)

表 8 所得

子どもの自己肯定感「そう思わない」とした割合(小学校5年生)

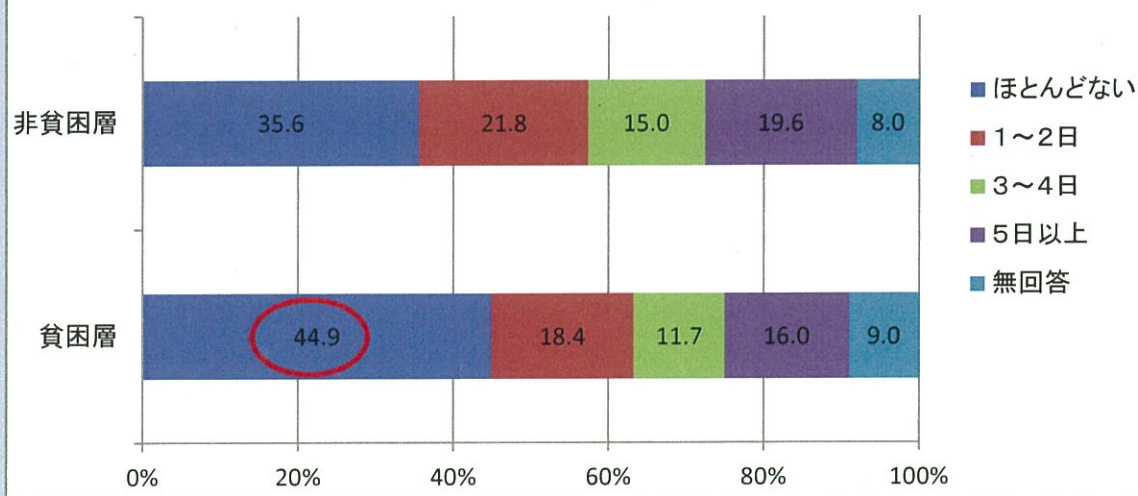


※平成24年 大阪子ども調査

2-③ 所得が低いほど、子の「自分は価値のある人間」、「将来が楽しみ」と思わない割合が高い。

表 9 所得

将来に対して希望を持てる日(1週間のうち)中学2年生の保護者



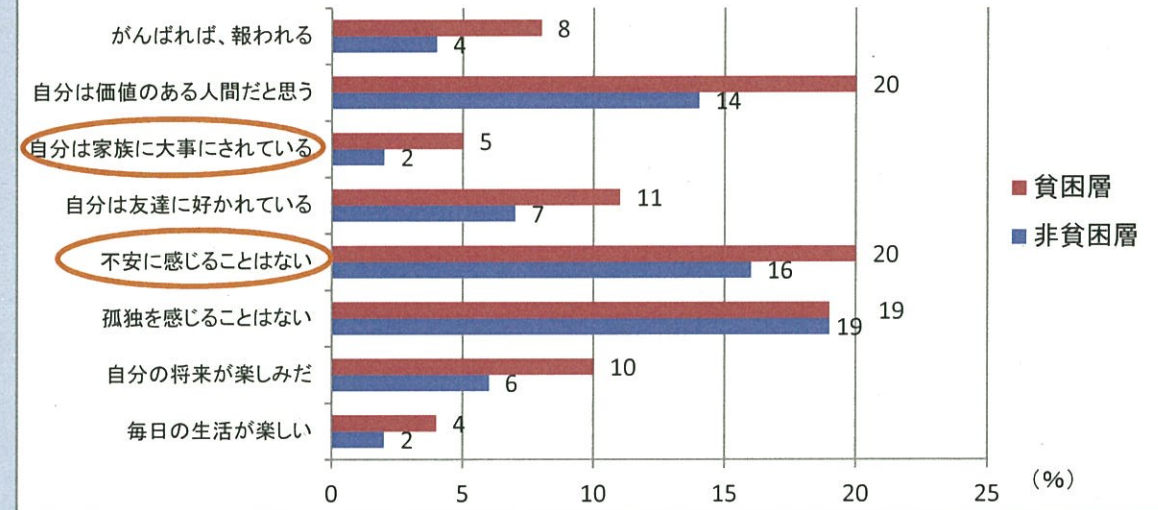
※平成24年 大阪子ども調査

2-④ 所得が低い親は、自分自身の将来の希望が持てない。

3. 安全・安心の不十分

表 8 所得 (再掲)

子どもの自己肯定感「そう思わない」とした割合(小学校5年生)

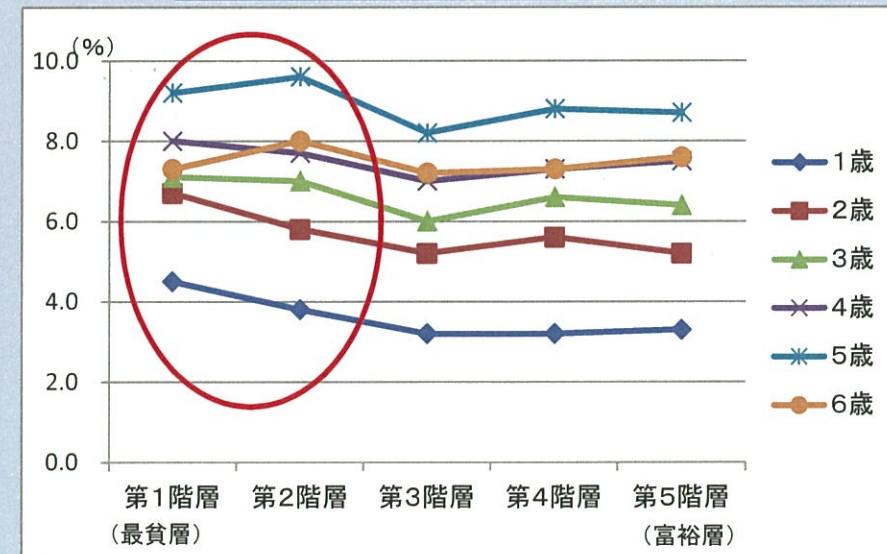


※平成24年 大阪子ども調査

3-① 所得が低いほど、子の「家族に大事にされている」、「不安に感じない」と思わない割合が高い。

表 10 所得

所得階層別ぜんそくの通院率



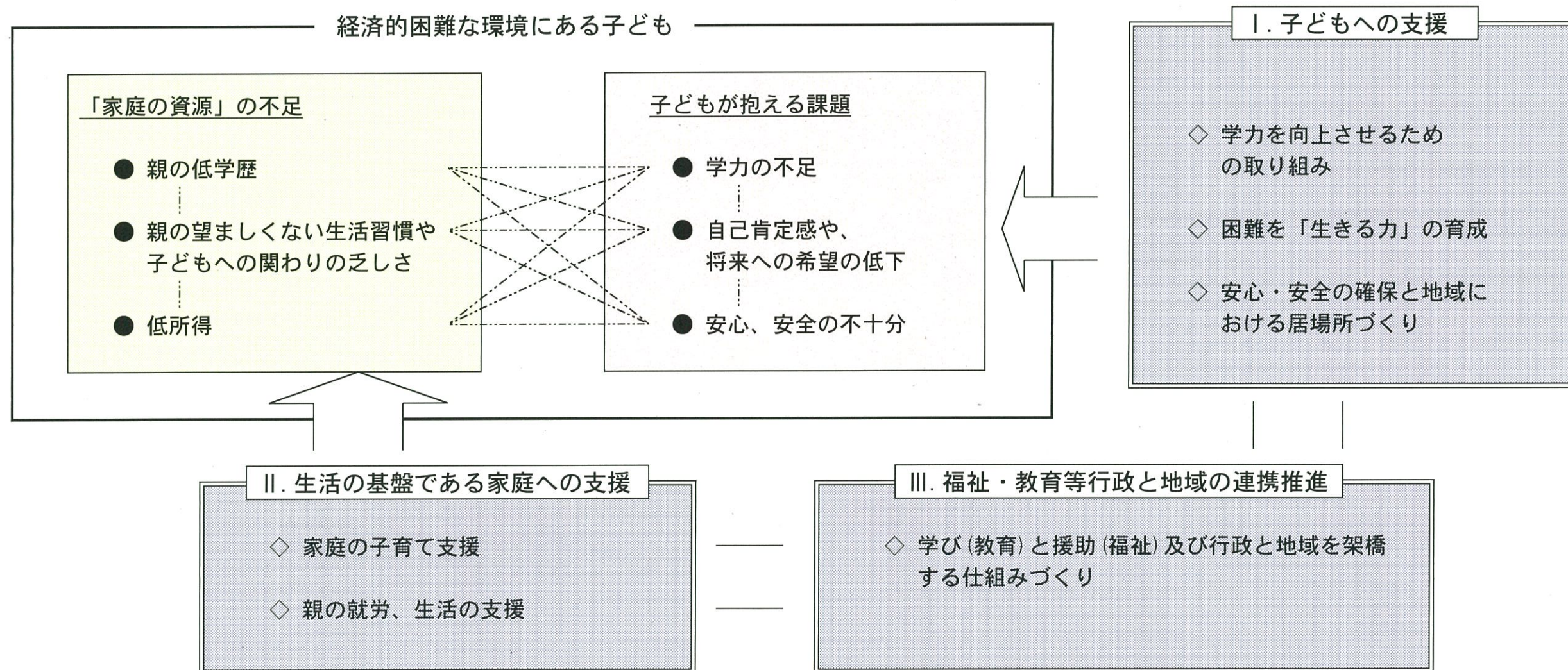
※子どもの貧困Ⅱ (首都大学 阿部教授)

3-② 1歳から5歳では、貧困層で、ぜんそくの通院率が高い。
※横軸は所得階層を5段階に分けたもの(第1=最貧層 第5=富裕層)

【施策の方向性について】

◇ 「家庭の資源」の不足に起因する子どもの問題に対応するため、**家庭の資源の不足を補う**ことを目的として、

I. 子どもへの支援 **II. 生活の基盤である家庭への支援** **III. 福祉・教育等行政と地域の連携推進** を柱に、施策の方向性を検討。



※ 具体的施策は、本県の現状、課題、それらに対する「奈良県子どもの貧困対策会議」の意見等を踏まえ、検討を行う。